武家諸法度　寛文令（１６６３）

一忠孝をはげまし、礼法をただし、常に文道武芸を心がけ義理を専にし、風俗を乱すべからざる事

一軍役の定、旗・弓鉄砲鑓・甲冑・馬皆具・諸色兵具并人積、無相違可嗜之事

一兵具之外、不入道具を好、私之奢不可致、万倹約を用べし、知行損毛、或船破損、或火事、此外人も存たる大成失墜ハ各別、件之子細なくして、進退不成奉公難動輩ハ可為曲事事

一屋作之営、不可及美麗、向後弥分限ニ応じ可為簡略事

一嫁娶之儀式、不可及美麗、自今以後弥応其分限可省略、縦大身たりといふとも、長柄つり輿三拾丁、長持者五拾棹過べからず、惣而此数量を以分限ニ応可沙汰事

一振舞之膳、七五三等の饗応之外ハ木具并杯之台金銀彩色之造花停止之、但晴之会合、嫁娶之時ハ木具盃台用捨すべし、惣而振舞之義者かろく致、酒乱酔に不可及事

一音信之礼儀、太刀馬代黄金壱枚、或銀拾枚、分限にしたがひ、此内を以可減少之、或銀壱枚青銅三百疋礼物百疋に至迄可用之、并小袖十如右可減少之、雖為大身不可過之、惣而諸色此積を以可用遣之、国持大名と礼儀取かハしの時も此上之美麗不可致、勿論酒肴等も可為軽少事

一行死罪者有之時ハ役人之外一切其場へ不可懸集事

一喧嘩口論堅制禁之、若有之時荷担ハ其咎可重於本人、惣而喧嘩口論之刻、一切不可馳集事

一城中において、万一喧嘩口論有之節ハ、其相番中可計之、猥他番より不可集寄、番無之節ハ其所へ近輩可取扱計之、令油断者可為越度事

一火事若令出来ハ役人并免許之輩之外、不可懸集、但役人差図之者ハ可罷出事

一本主之障有之者、不可相抱、叛逆殺害盗賊之届あらば急度可返之、其外軽咎之者ニ至て、侍者届次第可追払之、小者中間者可返之、於難渋ハ番頭組頭及談合可済之、頭なきものハ其並之輩可致談合、若有滞所者達役者可受差図事

一於諸家中大犯人あらハ、縦雖為親類縁者、直参之輩取持、不可相囲事

一何事においても私之争論不可致、若申旨あらバ番頭組頭可令相談之、番頭なきものハ、其並之輩及相談可済之、滞儀あらハ達役者可受其旨事

一百姓訴論之事、双方之番頭・組頭遂穿鑿、其組之荷担不致之、相互令談合可捌之、頭なき者ハ其並の輩寄合可済、滞義あらハ、達役者可受其捌、然上者地頭・代官者勿論、番頭・組頭并其捌之輩不及出於評定所之事

一知行所務諸色、相定まる年貢所当之外、非法をなし、領地亡所ニ致べからざる事

一新地之寺社建立弥可令停止之、若無拠子細有之ハ達奉行所可受差図事

一跡目之義養子ハ、存生之内可致言上之、及末期雖申之不可用之、雖然其父年五拾已下之輩、雖為末期、依其品可立之、十七歳以下之者、於致養子ハ吟味之上許容すべし、向後ハ同姓之弟・同甥・同従弟・同又甥・同又従弟此内を以、相応之者を可撰、若同姓無之ハ入婿・娘方之孫姉妹之子、種替り之弟、此等之者其父之人柄により可立之、自然右之内ニ而も可致養子者、於無之ハ達奉行所可受差図也、縦雖為実子、筋目違たる遺言立べからざる事

一嫁娶并養子之義ニ付、貧たる作法不可仕事

一結徒党、致荷担、或妨をなし、或落書張文博奕不行儀之好色、其外侍に不似合事業不可仕事

一徒・若党衣類、さやちりめん・平島・羽二重・絹紬・布　木綿之外停止之事
　附　弓鉄砲之者、絹紬・布木綿之外不可着之、小者中間衣類、万布木綿可用之事

一物頭・諸役人万事に付而、不可致依怙并諸役之者其役之品々常ニ致吟味不可油断事

一家業無油断可相勤事

右条々依先刻之旨損益之、今度定之訖、堅可相守之、若於有違犯族ハ、糺咎之軽重、急度可処罪科者也
　　　寛文三卯年八月五日